

5 戦略課題名No. 5 「いちごの若手生産者育成と生産性の向上」

対象地区：宇都宮市、上三川町

対象名：JAうつのみや苺専門部、いちご個人出荷者、いちご新規栽培志向者、女性農業者、海道いちご団地生産者、大谷地区夏秋いちご生産者、いちご無病苗増殖施設運営協議会、河宇地方いちごリレー苗生産協議会

1 普及活動の経過

(1) いちご新規栽培者の確保・育成

関係機関と連携を図り、19名の就農希望者に対し、就農相談や青年等就農計画などの就農支援を行いました。また、新規就農者に対しては現地検討会や個別巡回などによる早期技術習得を図りました。

(2) いちご無病苗の生産体制の強化

管内4基地の無病苗の安定生産に向けた巡回指導を行うとともに、種苗法に関する資料を作成・配布し、生産者への啓発を実施した。また、「河宇地方いちごリレー苗生産協議会」を関係機関と設立し、令和8年産から定植苗供給をスタートしました。

(3) 「とちあいか」の栽培技術確立・普及推進

関係機関と連携して設置した「とちあいか」未来創りサポートチーム（地域チーム）で栽培講習会や現地検討会を開催し、「とちあいか」の栽培技術の確立・普及推進、また、品質・収量の高位平準化を図りました。



現地検討会



とちあいか栽培研修会

2 普及活動の成果

(1) いちご新規栽培者の確保・育成

令和7（2025）年度の新規栽培者は19名でした（雇用就農を除く）。令和3（2021）年度からの累計で76名になりました。

(2) いちご無病苗の生産体制の強化

令和7（2025）年度の無病苗充足率は、暑熱対策を重点的に行った結果、苺専門部で100%を達成しました。また、親株配布時に種苗法遵守について説明したことで、生産者が種苗法の理解が進みました。さらに、令和6（2024）年6月に「河宇地方いちごリレー苗生産協議会」が設立され、取組初年度の令和8年産は4基地で約37,000本を生産し配布しました。

(3) 「とちあいか」の栽培技術確立・普及推進

JAうつのみや苺専門部では令和8年産「とちあいか」の普及率が9割を超え、品種転換が概ね図られました。

3 課題と今後の取組方向

(1) いちごの新規就農希望者には、関係機関と連携して就農に向けた支援を行っていきます。また、新規就農者に対しても早期技術習得による安定生産や経営安定のために病害虫防除等の栽培技術を講習会や個別巡回指導で支援していきます。

(2) 無病苗基地の増設や設備の更新などの供給体制の強化を図るとともに、種苗法の厳守について指導します。また、リレー苗についても充足率100%を目指し、リレー苗の利用促進と生産力強化を推進します。

(3) 「とちあいか」未来創りサポートチーム（地域チーム）の活動により、急速な品種転換が図られました。一方で、先つまり果や空洞果、柳葉症状などの障害果・生理障害が発生しており、対策技術の確立が課題となっています。また、平均単収は6.5t/10aにとどまり、「とちあいか」のポテンシャルを十分に引き出せておらず、生産者間で収量や品質のばらつきが見られます。今後は関係機関と連携して原因究明と栽培技術の確立を進め、技術の高位平準化を図ります。

6 戦略課題名No.6「園芸立国かわち推進による産地の活性化」

対象地区：宇都宮市、上三川町

対象名：JAうつのみや園芸各専門部・専門部研究組織、宇都宮梨農業協同組合員、新規栽培希望者、露地野菜生産組織、土地利用型経営体、集落営農組織

1 普及活動の経過

(1) トマト周年安定生産体制の推進

越冬作型生産者を対象に、現地検討会や栽培講習会、個別巡回を通して適期管理及び病害虫防除を指導し、栽培技術向上を図りました。また、ICTを活用した環境制御技術について、データに基づいた栽培管理方法を推進し、単収向上を図りました。

(2) なら持続的産地の育成

若手生産者を対象に単収向上に向けた重点的な指導巡回を行いました。また、経営発展に向け女性生産者や女性パートナーを対象とした勉強会を開催しました。

(3) アスパラガス栽培技術の高位平準化

新規就農者や若手生産者に対して重点的に巡回指導やほ場検討会を開催し、栽培技術の高位平準化を図りました。また、関係機関と連携し、高温対策を目的とした県外視察研修や調査ほの設置、省力化技術である高畝栽培の情報提供・導入について支援を行いました。

(4) 土地利用型園芸産地の発展と持続化の推進

さつまいもは、収量・品質向上に向けて土壌消毒展示ほを設置し、検討を行いました。また、生産から加工・販売までの取組や、有機農業の実践的な取組について調査するため、県外視察研修を実施しました。

加工業務用にんじんは、播種後のかん水の推進や播種時期の検討を行いました。また、新たな販路開拓について支援を行いました。



写真1 トマト病害虫防除指導の様子



写真2 導入された高畝栽培



写真3 なら女性勉強会

2 普及活動の成果

(1) トマト周年安定生産体制の推進

越冬作型の夏期高温による障害果の発生を抑制するため、定植時期の違いによる裂果の発生割合について検証しました。その結果、定植の遅い株で裂果や裂皮の発生が20%程度減少することがわかりました。

(2) さら持続的産地の育成

さらでは、個々の課題を整理し指導した結果、若手生産者の単収が産地の平均単収2.0t/10aを上回り、4.4t/10aとなりました。また、女性農業士を中心とした「さら女性勉強会」の活動が3回実施され、産地維持に向けた新たな動きが見られました。

(3) アスパラガス栽培技術の高位平準化

アスパラガス専門部研究部の平均単収は2.41t/10aでした。また、定期的に病害虫対策などの情報提供を行い品質の向上に努めた結果、販売金額・出荷数量が過去最高となりました。

(4) 土地利用型園芸産地の発展と持続化の推進

さつまいもは、土壌消毒を行うことにより病害虫の発生が抑制され品質が向上することが明らかとなりました。加工用業務用になじんは、高温を避ける播種について検討をした結果、播種時期を遅らせることにより、発芽率を向上させることができました。

3 課題と今後の取組方向

(1) トマトは、若手生産者や親元就農者を中心に、栽培技術の早期習得に向けた支援をしていきます。また、夏期の高温対策について指導を継続して行い、品質改善を目的とした栽培技術の高位平準化と単収向上の支援をしていきます。

(2) さらは、新規栽培者の確保から定着までを確実に進める「仕組みづくり」を支援していきます。また、販売金額1,000万円以上の中核的生産者を育成するため、ウォーターカーテンを導入している生産者を対象に、新技術の精度向上、周年出荷の強化、省力化技術による規模拡大を重点的に支援し、中核的な生産者として育成していきます。

(3) アスパラガスは、産地維持、発展のため、若手生産者を中心に、軽労化に資する技術として、高畝栽培技術確立に取り組み、規模拡大の推進を図ります。また、夏期高温対策に取り組むとともに、今後増加が確実な改植対策として、改植事例調査、改植後の生育確保に向けた技術について知見収集と実証を行っていきます。

(4) さつまいもは、設立された「河内地域さつまいも生産者ネットワーク会議」の活動を支援しながら、さつまいもの自家増殖技術の普及推進や栽培技術の高位平準化を行います。加工用になじんは、発芽率及び単収向上に向けた支援を行っていきます。



写真4 さつまいも育苗指導の様子



写真5 さつまいも先進地視察研修(茨城県)

7 戦略課題名No.7「果樹・花き産地の持続的な発展」

対象地区：宇都宮市、上三川町

対象名：JAうつのみや梨専門部、宇都宮梨農業協同組合、梨新規栽培希望者、レモン研究会、レモン栽培希望者、県りんどう研究会宇都宮支部、JAうつのみや球根切花専門部、系統外ユリ生産者、新規栽培希望者

1 普及活動の経過

(1) 梨産地の維持と持続的な発展

計画的な改植・新植を図るため、JAうつのみやと連携し、ジョイント仕立て栽培の苗木植え付け講習会を開催し、導入の推進に取り組みました。

JAうつのみや梨専門部では産地維持を図ることを目的に、円滑な園地継承や新規就農者の確保のための園地流動化体制整備に関する会議を開催し、現専門部員に対して今後の営農に関する意向調査を行いました。

(2) 河内地域におけるレモン栽培技術の確立

レモンの栽培技術向上による販売数量の増加のため、個別巡回による栽培管理の支援を実施しました。

(3) りんどう産地の維持と安定生産支援

栽培管理や防除等の指導を行うとともに、改植推進資料を作成して生産者に配布し、健全株の維持や収量増加を支援しました。また、新規栽培者への重点指導を行いました。

(4) ゆりのスマート農業推進による生産力強化支援

ICTを活用したハウス内環境制御について、現地検討会及び講習会による集団指導とデータ分析結果を用いた個別指導を同時進行で実施し、安定生産に向けた技術力の向上を指導しました。また、夏期の暑熱対策についても継続的に指導を行い、切り花の品質向上を支援しました。

2 普及活動の成果

(1) 梨産地の維持と持続的な発展

今後の営農に関する意向調査を実施し、実態の把握と園地継承に向けたスケジュール策定を行いました。また、3回の会議を経て、産地維持計画書を策定し、専門部員の承認を得ることができました。

(2) 河内地域におけるレモン栽培技術の確立

栽培技術の巡回指導を行った結果、レモン研究会の今年度の出荷者は10名に増加しました。

(3) りんどう産地の維持と安定生産支援

適期栽培管理を実施することができ、新規生産者が無事に初出荷できました。

(4) ゆりのスマート農業推進による生産力強化支援

ゆりは環境測定装置のデータを活用した講習会や現地検討会を実施するとともに、個別指導を併せて実施することで、生産者ごとに栽培環境の見直し、改善に取り組みました。JA球根切花専門部は売上2億円から更に売上を伸ばし、市場評価が高まりました。



梨産地維持計画書作成実行委員会



ゆり現地検討会の様子

3 課題と今後の取組方向

(1) 担い手確保のため、産地維持に向けた仕組み作りを支援し、園地見学会など新規就農者獲得事業の取組みを関係機関と連携して推進していきます。また、早期成園化技術を導入した計画的な改植・新植を推進して園地の若返り、生産性の向上を目指します。

(2) 生産者の栽培技術が一定レベルに達し出荷体制が確立してきたため、今後も病虫害防除や施肥管理等栽培技術情報を提供し、産地の維持を図ります。

(3) りんどうは、栽培開始間もない生産者を対象に、引き続き適期作業が行えるよう支援していきます。

(4) 小規格球根を用いた栽培技術を確立させ、安定した輪数確保技術を普及していきます。
また、高温対策資材等の導入推進や、品質向上技術の普及等を通じて、部会員の品質の
高位平準化を支援していきます。

8 戦略課題名No. 8 「持続的に発展できる地域農業の推進」

対象地区：管内全域

対象名：市町、JA、管内農業者、認定農業者、生産者組織、有機農業者、有機農業志向者、とちぎグリーン農業志向者

1 普及活動の経過

(1) 環境負荷低減事業活動の計画認定（みどり認定）の推進

JAうつのみや苺専門部（河内・上三川支部）、和牛専門部会、肥育牛部会などの農業者組織を中心に、計画作成支援を行いました。また、変更計画の作成を推進し、農業改良措置の認定を支援しました。

(2) 有機農業の推進

有機農業に関する知識の習得や実践者の取組状況・関連資材を学ぶとともに、情報交換の場となる有機農業研修会を開催しました。また、有機農業実践者等で構成する「かわちゆるゆるグリーンネットワーク」を活用し、有機農業に関する情報提供を行いました。

(3) バイオ炭施用事業の実施

水稲バイオ炭連用調査ほを設置して生育調査等を実施し、その結果を現地検討会等で情報提供しました。また、関係機関と連携し、うつのみやグリーンマルシェや宇都宮市農林業祭などのイベントに出展し、バイオ炭によるCO₂排出量削減効果や環境配慮型栽培について説明を行いました。

2 普及活動の成果

(1) 令和8年1月末現在の認定数は30件（グループ申請13件、個人申請17件）、570名となりました。また、計画変更の支援と併せて農業改良措置の認定支援を実施しました。

(2) 有機農業研修会を開催したことなどにより、「かわちゆるゆるグリーンネットワーク」の加入者は28名となり、生産者同士の情報共有化やタイムリーな情報提供が強化されました。

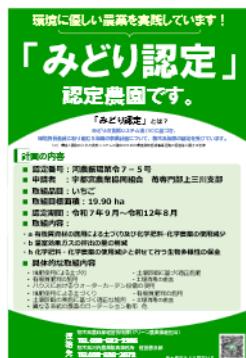
(3) 現地検討会等でバイオ炭展示ほの結果を生産者に周知できました。また、イベントに出展することで、バイオ炭のCO₂排出量削減効果や環境に配慮した栽培について、消費者の理解が促進されました。

3 課題と今後の取組方向

(1) 農業者組織、特に環境保全型農業直接支払交付金の取組組織へみどり認定を推進するとともに、関係機関・団体との連携を強化することで、みどり認定取得の促進を図ります。

(2) 「かわちゆるゆるグリーンネットワーク」を活用し、有機農業者への幅広い情報提供を行います。また、有機農業に関する知識の深化と情報交換の場を提供するため、研修会等を開催し、有機農業の普及を進めます。

(3) 水稲バイオ炭連用調査ほの設置、調査を継続して行います。また、イベント等を通して、環境に配慮したバイオ炭米の消費者へのPRと理解醸成を図る。さらに、宇都宮市と連携して、小麦等のバイオ炭施用展示ほの設置を支援します。



認定ポスターを掲げる部会員



有機農業研修会（経営技術改善セミナー）